国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 283
2024.1▸2

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日　2024年1月1日
編集・発行　公益財団法人千里文化財団

あけまして おめでとうございます。

今年、国立民族学博物館は創設50周年を迎えます。

新春を迎え、みなさまのご健康とご多幸をお祈り申しあげます。
当財団では、文化人類学の知見を会員のみなさまと共有すべく、本年もさまざまな友の会の催し、刊行物の企画を進めてまいります。これからも友の会への変わらぬご支援を賜りますようお願い申しあげます。

吉田館長より新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

みんぱくは、国立学校設置法の一部を改正する法律の施行により、一九七四（昭和四九）年六月に創設されました。その後、一九七七（昭和五二）年一一月に博物館を開館。一九八九（平成元）年に総合研究大学院大学（総研大）の専攻を併置し、さらに、二〇〇四（平成一六）年の大学共同利用機関法人化を経て、現在に至ります。みんぱくは、現在、文化人類学関係の教育研究機関として、世界全域をカヴァーする研究者の陣容と研究組織、博物館機能を備える世界で唯一の存在であると同時に、その施設の規模の上で、世界最大の民族学博物館となっています。

ひとつの機関にとって、五〇年を経た時期というのは、重要な節目になるものと思われます。その節目にあたって、私たちは、みんぱくの過去の五〇年を振り返り、現状を見極めて、これから五〇年先、一〇〇年先の人類学のありかたとみんぱくの姿を構想するため、『みんぱく五〇年史』の編纂や、三度にわたる創設五〇周年記念国際シンポジウムなど、一連の記念事業を実施することといたしました。

もとより、フォーラム型人類文化アーカイブズの構築や、「誰一人取り残さない」ユニバーサル型展示の実現など、かねてより進めてまいりました開かれた博物館づくりについては、心も新たに、今後とも精進してまいります。

みんぱくにとって、いわば第二の出発ともいえるこの重要な時期にあたり、改めまして、友の会のみなさまのご支援・ご協力を心よりお願いいたします。

新しい年がみなさまにとりまして実り多い年でありますよう、お祈りしております。

吉田 憲司

国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』が、2024年1月号からリニューアルいたしました！

- 特集コーナーが２ページ、ボリュームアップ！
- さらに読みやすく、もっと深掘りしてお届け！
- ６つの連載コーナーが新たにスタート！

＼新連載コーナー／

研究者がみんぱくの推しを打ち明ける**「推しコレ図鑑」**。**「だって調査だもの」**では、現地ならではのすったもんだが語られ、フィールドノートもご開帳。そのほか4つの新コーナーもお楽しみに！

「ふらりミュージアム」（奇数月）…「小さな」ミュージアムとの偶然の出会い
「もっと、みんぱく」（偶数月）…… 展示場にも、解説にもないみんぱくのトリビア
「世界の「乗っちゃえ！」」…… 乗り物から見る世界のくらし
「ぱくっと！フィルめし」…… フィールドワーカーの等身大ごはん事情

館内催し　会員先行予約のご案内

みんぱくゼミナール、みんぱく映画会には、友の会会員のみなさまを対象に先行予約がございます。
該当期間中に友の会事務局までご連絡ください。先行予約枠が定員に達した場合は、一般受付をご利用ください。

館内催しの詳細はこちら！　https://www.minpaku.ac.jp/event/

みんぱくゼミナール

第541回

博物館の舞台裏
——資料の保存を考える

講師　園田 直子（民博教授）
日時　1月20日（土）13:30〜15:00（開場13:00）
会場　みんぱくインテリジェントホール（講堂）（定員400名）

申込期間

■友の会先行受付（定員80名）
※受付期間は終了しました。

■一般受付
・オンライン予約
期間：1月17日（水）まで
・当日参加受付（定員80名）

第542回

地球と文明
——ホモ・サピエンス史からの展望

講師　池谷 和信（民博教授）
日時　2月17日（土）13:30〜15:00（開場13:00）
会場　みんぱくインテリジェントホール（講堂）（定員400名）

申込期間

■友の会先行受付（定員80名）
期間：1月15日（月）〜19日（金）

■一般受付
・オンライン予約
期間：1月22日（月）〜2月14日（水）
・当日参加受付（定員80名）

【みんぱく創設50周年記念企画展「水俣病を伝える」関連】

第543回

水俣病を伝える

講師　永野 三智（水俣病センター相思社）
　　平井 京之介（民博教授）
日時　3月16日（土）13:30〜15:00（開場13:00）
会場　みんぱくインテリジェントホール（講堂）（定員400名）

申込期間

■友の会先行受付（定員80名）
期間：2月9日（金）〜16日（金）

■一般受付
・オンライン予約
期間：2月19日（月）〜3月13日（水）
・当日参加受付（定員80名）

みんぱく映画会

みんぱく映像民族誌シアター　**館外で開催**

みんぱく製作のDVD「みんぱく映像民族誌」シリーズの収録作品を上映します。

面打ち
—京都の能面師

解説　吉田 憲司（民博館長）
司会　黒田 賢治（民博助教）
日時　2月18日（日）13:30〜16:00（開場13:00）
会場　シアターセブン（大阪・十三）
参加方法　①会場参加（定員55名）
　　②オンライン参加（ライブ配信）（定員100名）

申込期間

■友の会先行受付（定員10名）
期間：1月5日（金）〜12日（金）

■一般受付
・オンライン予約
期間：1月15日（月）〜2月9日（金）

申込方法

◆友の会電話先行受付
申込先着順／本人を含む2名まで
【申込先】千里文化財団友の会事務局
電話 06-6877-8893（9時〜17時、土日祝を除く）

◆一般受付
申込先着順／本人を含む2名まで
みんぱくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。
オンライン以外の受付方法については、みんぱくホームページならびにフライヤーをご確認ください。

いずれも申込先着順。参加無料。
みんぱくゼミナールは、当日11時より会場前にて入場整理券を配布します。

アーカイブス動画公開中！

日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2023

「日本人」の内と外
——異文化接触を語り合う

2025 年の大阪・関西万博まで、毎年開催する日本万国博覧会記念公園シンポジウム。
昨年10月に実施したシンポジウムのアーカイブス動画を公開中です。
ぜひご覧ください！

動画公開ページ
https://www.senri-f.or.jp/expo_symposium2023/

年初め恒例！友の会会員限定企画です。

中牧理事長のオンラインサロン

みんぱく友の会を運営する千里文化財団の理事長は、みんぱく名誉教授の中牧弘允先生です。
新しい年を迎えるこの機会に、中牧理事長とのおしゃべりを楽しみませんか？
サロン恒例のミニレクチャーでは、理事長が「干支」についてお話しします。

中牧理事長

日時　1月14日（日）13:30〜15:00
無料のオンラインイベントです。
1月10日（水）までにお申し込みください。

お申し込みいただいた方には後日、詳しい参加方法のご案内をさしあげます。

催しの詳細・受付フォーム
https://www.senri-f.or.jp/rijichosalon004/

1・2月のイベントスケジュール

●友の会講演会 [オンラインは要事前申込]
1/6(土) 藤井真一(＊)　2/3(土) 宮前知佐子(＊)

●みんぱくゼミナール [要事前申込]
1/20(土) 園田直子　2/17(土) 池谷和信

●みんぱくウィークエンド・サロン
1/28(日) 松尾瑞穂　2/11(日) 宮前知佐子
2/25(日) 樫永真佐夫

●みんぱく映画会/
みんぱくワールドシネマ [要事前申込]
1/27(土)「はちどり」

●その他の催し
1/6(土)、1/7(日) 年末年始イベント
「HAPPY 龍 YEAR！@みんぱく」
1/14(日) 中牧理事長のオンラインサロン
2/10(土)、2/11(日)
みんぱく創設50周年記念国際シンポジウム
「博物館における資料保存の過去、現在、そして未来」[要事前申込](＊)

【館外での催し】

●みんぱく映像民族誌シアター [要事前申込](＊)
会場：シアターセブン＜大阪・十三＞
1/13(土)「津軽のカミサマ」
1/21(日)「千年の時を奏でる
――モロッコのアンダルシア音楽祭」
2/10(土)「ジャワ島チルボンの木偶人形芝居
――ワヤン・ゴレック・チュパック」
2/18(日)「面打ち――京都の能面師」

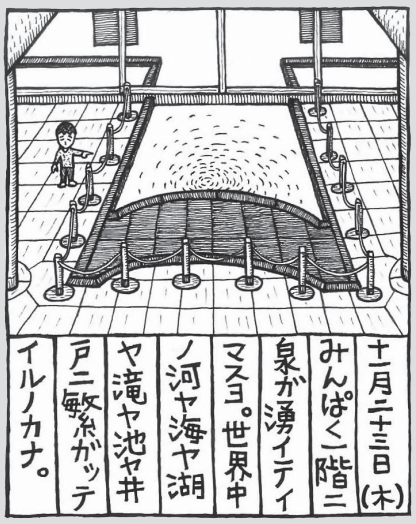
◆予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがございます。また、会場とオンライン配信の併用（＊印）で実施する催しもございます。詳細はみんぱく、ならびに友の会のホームページをご確認ください。
◆イベントの参加には必ず会員証をお持ちください。

◆◆◆ 年末年始の休館・休業のお知らせ ◆◆◆

国立民族学博物館と友の会事務局は**2023年12月28日(木)から2024年1月4日(木)**まで休館・休業いたします。※12月 27日(水)は通常の休館日です。

ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

■大阪
・会場（定員90名）、オンライン配信ともに事前申込先着順です。
・会員は会場参加に限り予約が不要です。会場受付にて会員証をご提示ください。

■東京
・事前申込先着順です。オンライン配信はございません。

※大阪・東京ともに会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます。
（参加費500円）

大 阪

第545回

新たな知の創造に向けて

講　師：宮前 知佐子（民博助教）
日　時：2月3日(土)13:30〜15:00(開場13:00)
参加方法：①第5セミナー室での参加　②オンライン(ライブ配信)での参加

2023 年 7 月のみんぱくゼミナールでは、文化遺産のもとへ向かい「デジタルドキュメンテーション」を実施する、情報工学研究者のフィールドワークを紹介しました。ドキュメンテーションされた、その後のデータはどうなるのでしょうか。本講演では、フィールドワークにまつわる小話や、フィールドワークの先にある研究について、お話しします。

受付フォーム　https://www.senri-f.or.jp/545tomo/

第546回

周縁から読み解く文明の形成
――神殿と文明の関わりを探る

講　師：松本 雄一（民博准教授）
日　時：3月2日(土)13:30〜15:00(開場13:00)
参加方法：①第5セミナー室での参加　②オンライン(ライブ配信)での参加

アンデス文明の形成過程において、その「周縁」とされた地域の実態はこれまで謎に包まれていました。しかし近年の考古学調査の成果からは、まさにこの「周縁」が希少な財の流通に大きな役割を果たし、文明の形成に大きく寄与したことがわかってきました。一方で、それまであまり研究者が入らなかった「周縁」での調査には、思いもよらない難しさもあります。最新の調査成果を現地調査のこぼれ話（主に失敗談）と共にお送りします。

受付フォーム　https://www.senri-f.or.jp/546tomo/

東 京

第136回

生まれかわりを信じるということ
――モンゴルの輪廻転生を巡る語りから

講　師：島村 一平（民博教授）
日　時：3月23日(土)13:30〜15:00(開場13:00)
会　場：モンベル御徒町店4階サロン（定員50名）
協　賛：株式会社モンベル
※オンライン配信はございません。
※9月の東京講演会と会場店舗が異なります。気をつけてご来場ください。

現在、多くのモンゴル人はチベット仏教的な輪廻転生を信じています。人が亡くなって 49 日が過ぎると、黒子や痣を目印に転生者を探すのです。本講演では、モンゴルの輪廻転生に関する普通の人びとの語りを紹介していきます。彼らの語りを通じて、転生が本当なのか、気持ちに揺れをもちながらも、人が死の悲しみを新たな生への喜びへと転換していく姿を描き出していきます。

受付フォーム　https://www.senri-f.or.jp/136tokyo/

友の会講演会 実施報告

■第541回■2023年10月7日(土)

【「カナダ北西海岸先住民のアート――スクリーン版画の世界」関連】

アート制作から見た 北アメリカ北西海岸先住民の社会・文化の変化

岸上 伸啓（民博教授）

北アメリカのアラスカ南東部からカナダ西海岸を経てワシントン州あたりにかけての太平洋沿岸地域にはハイダ民族やクワクワカワクゥ民族らが暮らしています。彼らの伝統文化は、一八世紀末のラッコの毛皮交易によって活性化しましたが、一九世紀後半以降のカナダ政府の同化政策によって急激に衰退しました。しかし、一九五〇年代から伝統文化の復興運動や創造的継承が始まりました。

トーテムポールは、家族の歴史を記念するため以外に公共施設の開設を記念するためや博物館・美術館やコレクターに販売するためにも作られるようになりました。長持ちさせるためにニスを塗ることを始め、土中に埋めずにコンクリート製土台の上に金属製器具で固定するようにもなりました。

版画は欧米社会から入ってきた媒体ですが、一九六〇年代から八〇年代にかけては神話や世界観、精霊、動植物、人間、家族の紋章が伝統的な表現様式で描かれていました。しかし一九八〇年代になると先住民運動や環境問題をテーマとした版画が、二一世紀に入るとスポーツや映画を題材とした版画も制作されるようになります。さらにスクリーン版画に加えて、PCを利用したジークレー版画も作られるようになり、色彩豊かで伝統的な表現様式にとらわれない作品が作られています。

トーテムポールや版画の制作はカナダ社会の変化の影響を受けて変化してきた一方で、アーティストはそれらを用いて自らの文化や意見を発信しており、社会を変えようと働きかけています。

制作中のハイダ民族のトーテムポール。
撮影・岸上伸啓、BC州ハイダ・グワイのオールド・マセット、2022年8月

■第542回■2023年11月4日(土)

【『有明海のウナギは語る――食と生態系の未来』出版記念講演】

有明海のウナギから考える、生態系の未来

久保 正敏（『季刊民族学』編集長、民博名誉教授）

中尾勘悟氏との共著本『有明海のウナギは語る――食と生態系の未来』の一部を紹介しました。その生態に謎が多く保全が困難な温帯性ウナギ三種を絶滅危惧に追いやったのが実は日本人の過食であることを解説し、続いて興味深いニホンウナギ漁法の数々を紹介、漁獲量減少は水辺生態系の劣化と連動するとの問題意識で、治水政策史を振り返りました。近代的治水を見直してオランダなどで提唱されてきた、「自然を基盤とする解決策」に沿う最近の「流域治水」論を紹介しました。またこれは、生態系を保全する地産地消・循環型地域経済の活性化にもつながり、来るべき食料危機に備えるヒントと捉える実践例もいくつか紹介しました。気仙沼で畠山重篤氏が広めてきた「森は海の恋人」運動にならい、淀川流域で植林を進めて淀川での天然ウナギ復活を後押しする動きもそのひとつです。

最後の三題話「ウナギ、朝ドラ、宝塚」では、江戸中期出雲地方のウナギ大漁でできた「ウナギ街道」により大坂に「出雲屋」を名乗る鰻店が多数出現、その元祖店が、明治末から大正期の百貨店少年少女合唱隊設立ブームに便乗して作った出雲屋少年音楽隊の一期生、服部良一氏がJOBK（現・NHK大阪）楽団に招かれジャズブームを牽引し、同楽団が、百貨店のブームに誘われ生まれた宝塚唱歌隊とともに当時の関西音楽シーンを作り出し、両楽団に深く関わるのが、ロシア革命を契機にウクライナから亡命してきた文化人たちであり、彼らが住んだのが、阪神間モダニズムのシンボルのひとつ、神戸東灘の「深江文化村」だった、など、歴史の不思議な縁を紹介しました。

佐賀県鹿島市石木津川河口のウナギ塚にて。
撮影・中尾勘悟、2023年5月

本紙掲載の情報は、2023年12月20日時点で決定している内容です。諸事情により急遽予定を変更する場合があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1（国立民族学博物館3階）
電話：06-6877-8893（平日9:00～17:00）
FAX：06-6878-3716
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報

ホームページ https://www.minpaku.ac.jp

Facebook https://www.facebook.com/MINPAKU.official

国立民族学博物館友の会 最新情報

ホームページ https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

Facebook https://www.facebook.com/minpakutomo/